

大水をふせぐ努力^{どりよく}

大水の被害^{ひがい}にあった人たちは、苦勞^{くろう}してこわれた家や流された田畑^{なはた}を直しました。村でも、国や県と協力^{きょうりよく}しながら、こわれた橋やけずられた道路を直すために努力しました。しかし、被害にあった人たちや村が努力したのは、こわれたものを直すだけではありません。二度と被害にあわないための努力もしたのです。そのひとつが、護岸工事^{ごがんこうじ}と永久橋づくりです。

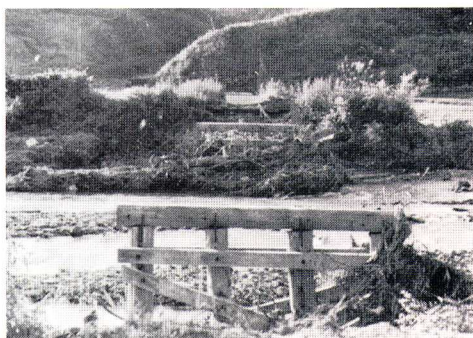
護岸工事とは、川の水によって土手がけずられないよう、コンクリートで土手を固める工事^{かた}をすることです。永久橋づくりとは、橋を木製からコンクリート製にしたり、橋のつくり方を工夫^{くふう}したりして、よりがんじょうにすることです。これらは、村だけでなく、国や県の仕事としても行われたのです。



▲被害直後の川の様子



▲護岸工事完成後の様子



▲被害直後の橋の様子



▲永久橋完成後の様子